

夜の石は天に昇り空ゆく星に会えた

Songs of stars



白橋 升

夜の石は天に昇り空ゆく星に会えた

Songs of stars



白橋 升

遊星出版

表紙・挿絵  
白橋  
升

# 目次 I

登場人物	9	九. 大切なもの	64
○. 愚問	11	十. 瞑想	74
一. 約束	17	十一. 隠者	76
二. 光の海	25	十二. 占術書	80
三. 出発(たびだち)	33	十三. 珍客	82
四. 世界	35	十四. 道	85
五. 旅	42	十五. 贈り物	95
六. 理由(わけ)	52	十六. お告げ(オラクル)	100
七. 結婚	55	十七. 助言	109
八. 最期(さいご)	61	十八. 記憶	124

目次Ⅱ

十九 探求

二十 物語

二十一 風

147 141 132

すべての年老いた魂へ



あなたはうつむいたまま、つひや眩くらいた。  
「旅は、もうよそう」



## 登場人物

あなた……………主人公。

ぼく……………主人公。

あなたのようなぼく……………主人公。

ぼくのようなあなた……………主人公。

眼……………主人公。

ワニ……………バス運転手。

伴侶……………配偶者。

清掃係……………役割をはたす人。

クマ……………占いの客。

師団長……………強権的な上司。

主人……………バー店主。

野ウサギ……………バーの客。

カラス……………バーの客。

巫女……………オアシスの指導者。

大猫……………図書館司書。

○. 愚問

何処どこの誰の話なのか、わからない。

ぼくの話の様であり、あなたの話の様でもある。

ひよっとしたら、すべての人々の話かもしれない。

話は闇から始まる。

何もかも包み込む柔らかい闇。

始まりも終わりも、無い。

白い光の点が現れる。

大きくなって、広がる。

視界一杯に。

風景が浮かぶ。

風景は、窓から外を見ている様であり、あなたの視界の様でもある。  
枠がある様で無い様な、誰が見ているのか、何処から見ているのか判らない。

真ん中に巨大な眼。

巨大な眼に巨大な<sup>まぶた</sup>瞼。

開いたり閉じたり。

呼吸するように。

ゆっくと。

眼はこちらを見ている。

あなたは眼をそらすことができない。

眼はやがて話し出す。

「あなたは見てはいけないものを見てしまった」

あなたは何か言いかける。

しかし眼はあなたの言葉ことばを遮る。

「あれほど『見てはいけない』と念を押しておいたのに」

ため息をつく様に瞼はゆつくりと閉じられ、ゆつくりと開いていく。  
だんだんと眼のいる所がはつきりしてくる。

書類やら何やらが雑然と積み上げられた古い事務机の前に眼は座っている。  
振り返りながらあなたを見ている。

冬の日の朝だ。

白い光が部屋に満ちている。

ダルマストーブの上でヤカンがシュンシュンいつている。

眼は事務机の上を探って書類を一枚取りだす。  
名前を読み上げる。

あなたの名前。

「間違い無いね」

あなたは黙って頷く。  
うなず

「いや困った。前代未聞だ」

「何がですか」

「見た本人が何を見たかまったく覚えていないという事がだよ」

確かにそうだ。

あなたのようなぼくは思う。

何のことやらさっぱりわからない。  
あなたの名前の様に。

「これは無かったことにしておく」

眼は書類を破る。

細かくちぎってブリキの屑くず入れに。

「あとは好きにしろ」

眼はあなたに放る。

小さな帳面が一冊。

「誰なんですか、あなたは」

眼は大きな瞼をゆつくりと閉じる。

「やれやれ。そんな事まで忘れてしまったか」

白橋 升

夏がはじまりおわる  
ころ

ウミはその名前と裏腹に海に出たことなど一度もなかった。日がな一日、ただ海を眺めているだけ。そんな青年の前に、見ず知らずの、ひとりの子供が現れる……ちよつと不思議なひと夏のお話。

白橋 升

夜の石は天に昇り  
空ゆく星に会えた

あなたのようなぼく、ぼくのようなあなた。ぼくとあなたでこの宇宙ができているのだとすれば、ぼくとあなた。それがすべて。旅している人に。旅が好きな人に。これから旅をしようとしている人に。

白橋 升

大きな櫛の樹の下に

均衡世界シリーズに迷いこんでしまう。はたしてそこは……

カタドウリという国に住む、ホノワール・オモタ氏はちよつと疲れたサラリーマン。ある日偶然見つけた占いの本に導かれるようにして、カタドウリとは、似て非なる国

カタ中央大学 ユウキ・シンダイ大教授

ほんとうのこと、または、

でたらめの書

均衡世界シリーズ

「大きな櫛の樹の下に」に登場した占いの本を忠実に再現。ホノワール・オモタ氏が手にした不思議な本が、あなたの手にも。シンダイ大教授の懇切丁寧な説明付きです。物語の続きはぜひあなたの手で！

白橋 升

ミネリの銘板

均衡世界シリーズ

「大きな櫛の樹の下に」続編登場！舞台はオモタ氏がカタドウリへと帰った一〇年後のカタ。古書店を手伝うミオは偶然出会った年上の女に、面倒にまきこまれそうなどころを救われる。女は実は「魔女」で……

以下続刊

